

各宗教は自死とどのように向き合っているのでしょうか。

皆様はどうお考えですか？

4人の宗教者が自死をめぐる、次のような問いかけについて語り合います。

*最近「自殺」より「自死」といわれますが、なぜでしょうか？

*自死とは悪ですか？

*人はどうして自死するようになるのでしょうか？

*自死した人の家族・親しかった者の思いはどうでしょうか？

*自死について宗教者の使命は何でしょうか？

*そもそも死とは何でしょうか？

皆様もこの自死をめぐる、宗教がどのように関わり、救いの光を照らそうとしているのかを考えてみませんか。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

シンポジウム

宗教者の使命

— 自死をめぐる —

パネリスト

三橋 健 (神道)

中山義紹 (禅曹洞宗)

井上博隆 (浄土真宗)

宮原良治 (カトリック)

2012年9月17日(月) 14時～17時

●場 所

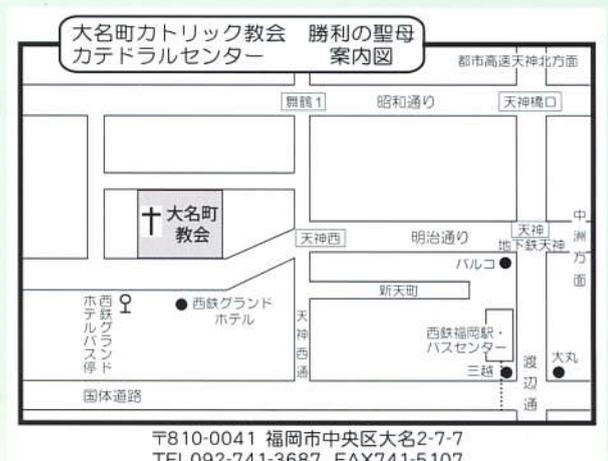
福岡カテドラル・大名町カトリック教会

●連絡先

真命山・諸宗教対話センター

フランコ神父 TEL 0968-85-3100

入場無料



主催：日本カトリック司教協議会 諸宗教部門

責任司教 岡田 武夫 大司教

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

TEL 03-5632-4445 Fax 03-5632-4465

～ パネリスト紹介 ～

三橋 健

1939年生まれ、國學院大學文学部卒業、同大学院文学研究科神道学専攻博士課程を修了。神道学博士。1971年から74年まで、ポルトガルのコインブラ大学へ留学。帰国後、國學院大學講師、助教授を経て教授となり、2010年、定年退職し、現在は同大学院客員教授。なお、1996年に在外研究員としてフランスとイタリアへ派遣され、パリドフィーヌ、グレゴリアン、ナポリ東洋などの各大学で神道に関する講演、講義を行う。また国内では東洋、上智、駒澤、清泉女子大学などの非常勤講師を務めた。神道や神社に関する著書多数。

中山 義紹

1958年、浄国寺七世住職 中山道全の長男として生まれる。寺院の世襲化を批判して、九州大学法学部に進学。昭和57年卒業。その後経験のためと博多の明光寺専門僧堂（住職養成の専門道場）に入堂。在家からの出家者からの影響で、改めて曹洞宗僧侶としての道を歩む。曹洞宗青年会の諸役員を経て、現在、曹洞宗正教師。浄国寺住職。浄国寺参禅道場主管。併設の学校法人浄国学園理事長、高平幼稚園園長も兼任。

井上 博隆

1968年生まれ、浄土真宗本願寺派 光円寺第19世住職。早稲田大学在学中に日本基督教団の教会で聖書を学ぶ。牧師より、親鸞聖人の教えを聞き、プロテスタントと浄土真宗の共通性を知る。卒業後、在家仏教徒の向坊弘道師のもとで真宗の伝道活動に携わり、師が設立したフィリピン身障者施設でのボランティア活動、カナダ身障者施設視察とアメリカ大陸横断仏教伝道の旅に随行。その後、テラワダ仏教の師ケミンダ長老よりパーリ聖典の教えと実践を習う。現在はフランコ神父に導かれ、諸宗教間の相互理解と融和を深める。

宮原 良治

1955年生まれ。1982年司祭叙階。2000年大分司教に任命され、同年司教叙階
現在、カトリック福岡司教区 司教

当日プログラム

- 14:00 開会の祈りとあいさつ
- 14:10 4名のパネリストによる発題
- 15:40 休憩
- 15:55 対談、質疑応答（会場からの質問を受けて）
- 16:50 閉会あいさつ
- 17:00 祈り（黙祷）、閉会